

売上3000億円突破 コロナ需要に一服感

ポラス、23年3月期連結

ポラスの連結業績は、7期連続で売上高を更新、初めて3000億円を超えた。資材や用地などの上昇などにより4期ぶりに減益したものの、経常利益は2期連続で300億円を超えた。中央住宅は、売上高955億円（同0・5%増）、営業利益91億円（同9・2%減）、純利益56億円（同10・7%減）の増収減益。主力の分譲住宅事業では、戸建ての売上棟数は2792棟（同0・7%増）、契約棟数は2431棟（同20・3%減）。マンション事業は、契約戸数330戸（同19・5%減）にとどまった。

注文住宅事業は、単独展示場「体感すまいパーク」の来場予約が堅調に推移したほか、紹介契約が4割を占めるなど、安定受注の支えとなった。全体での受注棟数は685棟（同7・5%増）、契約棟数は635棟（同9・5%減）だった。非住宅木造建築の受注は19棟（同29・6%減）だった。

グループ3社で展開している不動産売買仲介事業では、売買仲介手数料は35億円（同%増）で過去最高を更新したほか、中古再生専門部署を立ち上げた結果、中古再生物件は仕入れ棟数、契約棟数とも増加。契約棟数は177棟（前年度比32%増）に伸長した。また、リフォーム事業は既存契約者からのリピート契約が伸長したほか、補助金を含めた改修などの受注が増加し、受注高、売上高とも過去最高を更新し、共に初めて100億円を超えた。